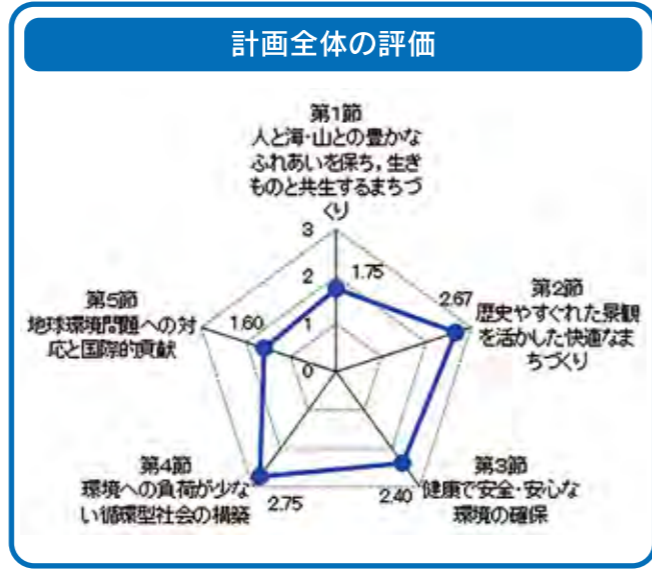
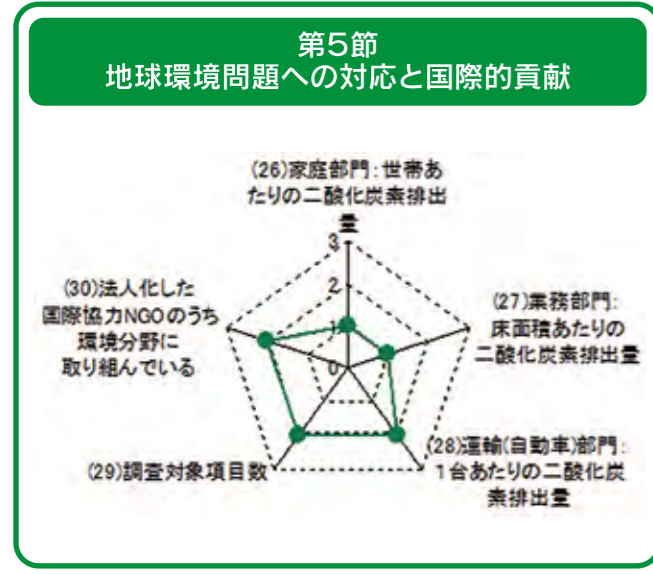
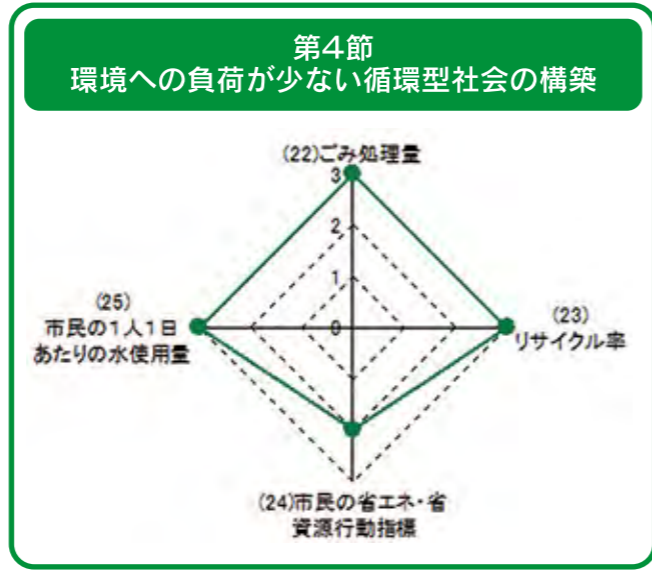
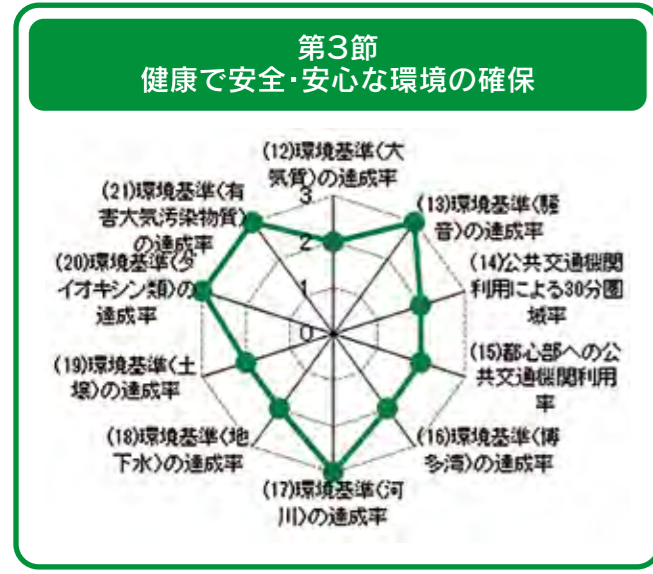
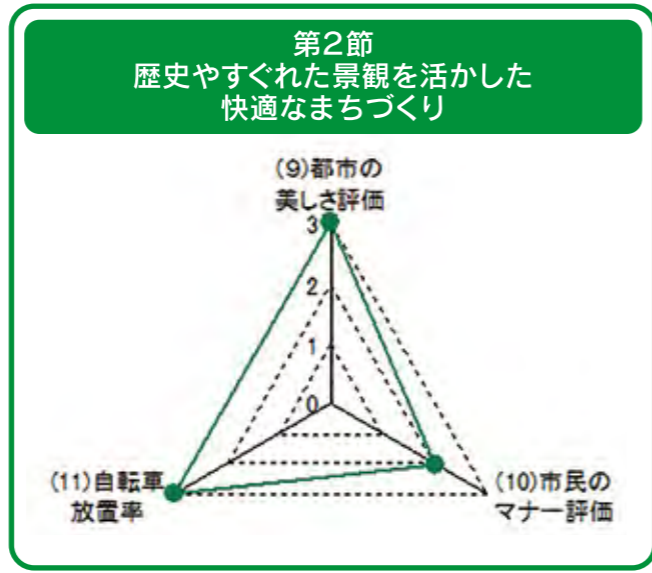
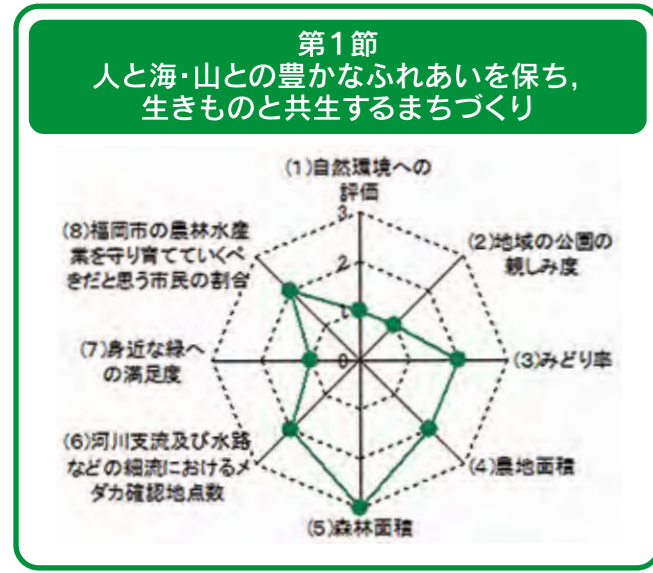


< 検証結果のまとめ >



< 各成果指標の進捗状況 >

現行計画における各成果指標の検証結果について

検証結果の総括表

節	項	成果指標	成果指標	総合評価
第1節 人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり	第1項 豊かな自然のネットワークと生物の多様性	(1)自然環境への評価	C	★
		(2)地域の公園の親しみ度	C	★
	第2項 豊かな緑の自然とのふれあい	(3)みどり率	B	★★
		(4)農地面積	B	★★
		(5)森林面積	A	★★★
	第3項 豊かな水辺の自然とのふれあい	(6)河川支流及び水路などの細流におけるメダカ確認地点数	B	★★
	第4項 人・地域がつくる自然とのふれあいの場と機会の創出	(7)身近な緑への満足度	C	★
		(8)福岡市の農林水産業を守り育てていくべきだと思ふ市民の割合	B	★★
第2節 歴史やすぐれた景観を活かした快適なまちづくり	第1項 歴史やすぐれた景観を活かした美しく個性あるまちづくり	(9)都市の美しさ評価	A	★★★★
		(10)市民のマナー評価	C	★★
	第2項 良好な生活環境の形成	(11)自転車放置率	A	★★★★
第3節 健康で安全・安心な環境の確保	第1項 大気・音環境の保全	(12)環境基準(大気質)の達成率	C	★★
		(13)環境基準(騒音)の達成率	A	★★★★
		(14)公共交通機関利用による30分圏域率	C	★★
		(15)都心部への公共交通機関利用率	Z	★★
		(16)環境基準(博多湾)の達成率	C	★★
	第2項 水環境・水循環の保全	(17)環境基準(河川)の達成率	A	★★★★
		(18)環境基準(地下水)の達成率	B	★★
		(19)環境基準(土壌)の達成率	Z	★★
	第3項 化学物質対策の推進	(20)環境基準(ダイオキシン類)の達成率	A	★★★★
		(21)環境基準(有害大気汚染物質)の達成率	A	★★★★
第4節 環境への負荷が少ない循環型社会の構築	第1項 廃棄物の発生抑制, 循環利用, 適正処理の推進	(22)ごみ処理量	A	★★★★
		(23)リサイクル率	A	★★★★
	第2項 省エネ・新エネ対策の促進	(24)市民の省エネ・省資源行動指標	B	★★
第5節 地球環境問題への対応と国際的貢献	第1項 地球環境対策に関する取り組みの推進	(25)市民の1人1日あたりの水使用量	A	★★★★
		(26)家庭部門:世帯あたりの二酸化炭素排出量	C	★
		(27)業務部門:床面積あたりの二酸化炭素排出量	C	★
	第2項 地球環境に関する調査・研究の推進	(28)運輸(自動車)部門:1台あたりの二酸化炭素排出量	A	★★
		(29)調査対象項目数	B	★★
第3項 国際環境協力の推進	(30)法人化した国際協力NGOのうち環境分野に取り組んでいる団体の数	B	★★	

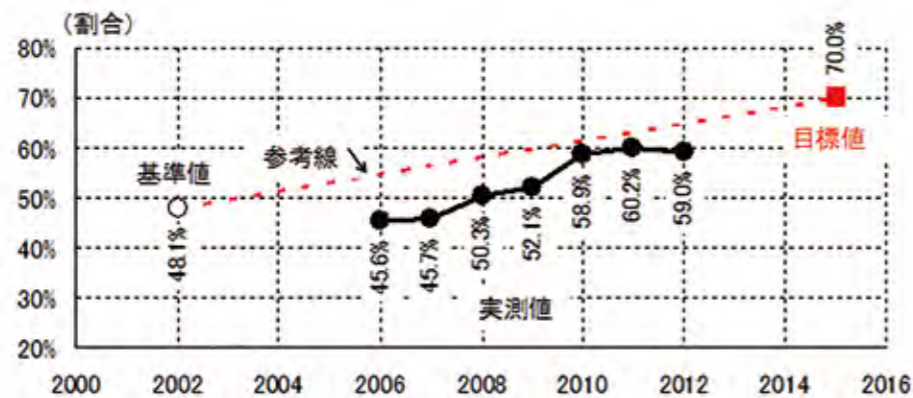
成果指標の進捗状況 整理票

第1節 人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり

**第1項 豊かな自然のネットワークと生物の多様性**  
 基本的方向: 主要な生態系構造を的確に把握するとともに、その健全さが維持され、周辺自治体とも連携しながら、脊振・三郡山系などの「森の緑地環」、そこから市街地に延びる「緑の腕」「山すそ緑地」などの緑の骨格並びに博多湾や河川などについて保全や再生・創出を進め、水と緑のネットワーク、生態系ネットワークの形成をめざす。

成果指標 (1)自然環境への評価

成果指標の目標達成度からの評価



出典: 福岡市新・基本計画の成果指標に関する意識調査

・2015年度に「自然環境が保全され、向上していると感じる市民の割合」が70%となることを目標とする。  
 ・実績値が参考線(基準値と目標値の線分)を下回っており、進捗が芳しくないと評価する。

実績評価: C

事業実績の状況

- ・生物多様性の保全や、その恵みの持続可能な利用のため、「生物多様性ふくおか戦略」を策定し、フォーラムの開催など、生物多様性の社会への浸透に取り組んだ。
- ・博多湾の持つ豊かな自然環境の保全・再生および創造を推進するため、「博多湾環境保全計画」に基づき、公共下水道等の整備、下水道の高度処理導入などの施策を推進した。
- ・今津干潟の保全を図るため、「今津干潟懇話会」(平成17年3月設置)における保全対策の検討、カブトガニ産卵場整備(砂入れ)等を実施した。
- ・生態系ネットワークの形成を図るため、生きものにぎわい創造事業として、里海保全再生事業、市民参加による緑地保全活動(エコアップ活動)、ピオトープ教室等を実施した。
- ・自然環境の現状を把握するため、市域の動植物の調査を実施した。
- ・エコパークゾーンの環境保全創造のため、海域環境創造事業(藻場造成等)や「和白干潟保全のつどい」による市民共働事業等を行った。
- ・野生鳥獣の適切な保護管理のため、鳥獣保護区等の指定・更新を国・県等と連携して行った。
- ・希少生物の保護のため、ヒナモロコの飼育を実施した。

外部要因  
 ・「生物多様性基本法」制定(平成20年6月)  
 ・「生物多様性国家戦略2012-2020」閣議決定(平成24年9月)  
 ・「福岡県生物多様性戦略」策定(平成25年3月)

総合評価  
 生物多様性の保全や、その恵みの持続可能な利用のための各施策を実施しているが、成果指標(自然環境への評価)の実績値からの進捗は芳しくない(評価C)。これらにより、当該目標は達成に至っていないと評価する。



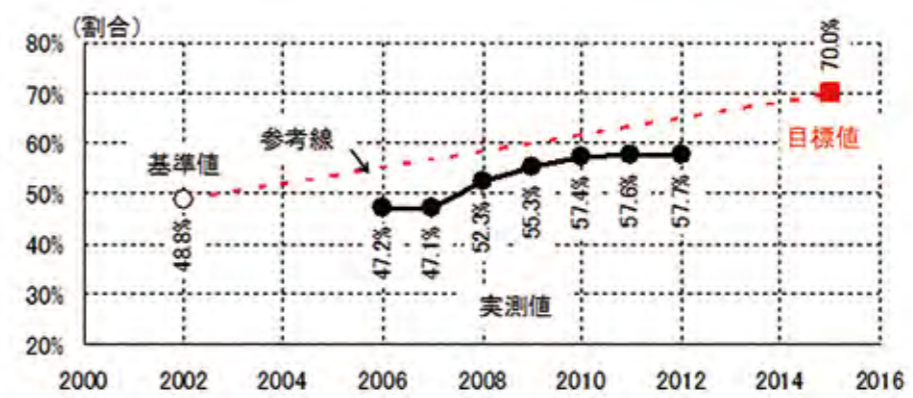
成果指標の進捗状況 整理票

第1節 人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり

**第2項 豊かな緑の自然とのふれあい**  
 基本的方向: 人々にうるおいと憩いや、多様なレクリエーション活動の場を提供するため、都市に残る良好な樹林地・農地を保全するとともに、多様な都市公園の整備、河川・ため池その他の公共空間や公共公益施設の緑化とそれらの適切な維持管理、また民有地の緑化を進め、市街地における緑の量と質を向上させ、緑あふれるまちづくりを推進する。

成果指標 (2)地域の公園の親しみ度

成果指標の目標達成度からの評価



出典: 福岡市新・基本計画の成果指標に関する意識調査

・2015年度に「地域の公園に親しみを感じる市民の割合」が70%となることを目標とする。  
 ・実績値が参考線(基準値と目標値の線分)を下回っており、進捗が芳しくないと評価する。

実績評価: C

事業実績の状況

- ・身近な公園整備として、幼児公園(617か所)、街区公園(691か所)、近隣公園(71か所)を整備した。  
 ※()内は、平成24年度末時点の公園数  
 ※公園種別について  
 幼児公園: 街区公園の一種であり、主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする0.1ha未満の公園。  
 街区公園: 主として街区内に居住する者に利用を供することを目的とする概ね0.1ha以上の公園。  
 近隣公園: 主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする概ね1.0haを標準とした公園。
- ・公園再整備を行った。

外部要因  
 ・特に想定されない

総合評価  
 身近な公園整備等の事業を実施しているが、成果指標(地域の公園の親しみ度)の実績値からの進捗は芳しくない(評価C)。これらにより、当該目標は達成に至っていないと評価する。  
 また、現状を調査・分析し、市民ニーズにあった公園整備を行うことで、利用者や隣接者からの苦情を減らし、公園の親しみ度を上げることが出来ると思える。



成果指標の進捗状況 整理票

第1節 人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり													
第2項 豊かな緑の自然とのふれあい 基本的方向：人々にうるおいと憩いや、多様なレクリエーション活動の場を提供するため、都市に残る良好な樹林地・農地を保全するとともに、多様な都市公園の整備、河川・ため池その他の公共空間や公共施設緑化とそれらの適切な維持管理、また民有地の緑化を進め、市街地における緑の量と質を向上させ、緑あふれるまちづくりを推進する。													
成果指標	(3)みどり率												
成果指標の目標達成度からの評価													
<p>(割合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2002</td> <td>28.4%</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>2008</td> <td>31.8%</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>2016</td> <td>33.7%</td> <td>30%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・2020年度に「みどり率」が33.7%となることを目標とする。          ・実績値が参考線(基準値と目標値の線分)とほぼ一致しており、概ね順調に進捗していると評価する。ただし、実績値が一時点しか存在しないため、補完する調査が必要。          ※「みどり率」は、福岡市新・緑の基本計画(2009年度改定)に基づく担保性のある緑の定義変更による値。</p>		年	実績値 (%)	目標値 (%)	2002	28.4%	30%	2008	31.8%	30%	2016	33.7%	30%
年	実績値 (%)	目標値 (%)											
2002	28.4%	30%											
2008	31.8%	30%											
2016	33.7%	30%											
<b>実績評価: B</b>													
事業実績の状況													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別緑地保全地区、緑地保全林地区の指定等」として、緑地の保全(特別緑地保全地区、緑地保全林地区、市民緑地等の指定、及びその助成、管理、工事)を行った。</li> <li>・「保存樹の指定」として、樹木の保存を行った。</li> <li>・「緑化推進事業(屋上・壁面緑化、公共施設の緑化)」として、民有地の緑化補助、公共施設の緑化を行った。</li> </ul>													
外部要因	・特に想定されない。												
総合評価	成果指標(みどり率)の実績値からの進捗は概ね順調(評価B)であり、緑地の保全(特別緑地保全地区等の指定・管理)や樹木の保存、民有地の緑化補助や公共施設の緑化等を着実に実施している。これらにより、当該目標は概ね達成していると評価する。 なお、成果指標の実績値が一時点しか存在しないため、本指標の設定については検討が必要である。												
★★													

成果指標の進捗状況 整理票

第1節 人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり																															
第2項 豊かな緑の自然とのふれあい 基本的方向：人々にうるおいと憩いや、多様なレクリエーション活動の場を提供するため、都市に残る良好な樹林地・農地を保全するとともに、多様な都市公園の整備、河川・ため池その他の公共空間や公共施設緑化とそれらの適切な維持管理、また民有地の緑化を進め、市街地における緑の量と質を向上させ、緑あふれるまちづくりを推進する。																															
成果指標	(4)農地面積(農業振興地域の農用区域内)																														
成果指標の目標達成度からの評価																															
<p>(ha)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>実績値 (ha)</th> <th>目標値 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2002</td> <td>1,582</td> <td>1,582</td> </tr> <tr> <td>2006</td> <td>1,586</td> <td>1,582</td> </tr> <tr> <td>2007</td> <td>1,586</td> <td>1,582</td> </tr> <tr> <td>2008</td> <td>1,587</td> <td>1,582</td> </tr> <tr> <td>2009</td> <td>1,563</td> <td>1,582</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>1,563</td> <td>1,582</td> </tr> <tr> <td>2011</td> <td>1,562</td> <td>1,582</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>1,561</td> <td>1,582</td> </tr> <tr> <td>2016</td> <td>1,561</td> <td>1,582</td> </tr> </tbody> </table> <p>・2015年度に農地面積が「現状維持」となることを目標とする。          ・実績値が参考線(基準値と目標値の線分)とほぼ一致しており、概ね順調に進捗していると評価する。</p>		年	実績値 (ha)	目標値 (ha)	2002	1,582	1,582	2006	1,586	1,582	2007	1,586	1,582	2008	1,587	1,582	2009	1,563	1,582	2010	1,563	1,582	2011	1,562	1,582	2012	1,561	1,582	2016	1,561	1,582
年	実績値 (ha)	目標値 (ha)																													
2002	1,582	1,582																													
2006	1,586	1,582																													
2007	1,586	1,582																													
2008	1,587	1,582																													
2009	1,563	1,582																													
2010	1,563	1,582																													
2011	1,562	1,582																													
2012	1,561	1,582																													
2016	1,561	1,582																													
<b>実績評価: B</b>																															
事業実績の状況																															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産緑地地区2.1ha、農用区域内の農地面積1,561haを指定(平成24年度末時点)。</li> <li>・今津リフレッシュ農園において、体験農園、じゃがいも・玉ねぎ掘り、栽培講習会・相談会、秋の収穫祭等を実施し、87千人が入場した(平成23年度)。</li> <li>・立花寺緑地リフレッシュ農園において、体験農園、栽培講習会・相談会、料理教室、年末感謝祭等を実施し、108千人が入場した(平成23年度)。</li> </ul>																															
外部要因	・市街化の拡大に伴う農地の宅地転用等により、農地が減少している。																														
総合評価	成果指標(農地面積)の実績値からの進捗は概ね順調(評価B)であり、リフレッシュ農園でのイベント等も着実に実施されている。これらにより、当該目標は概ね達成していると評価する。																														
★★																															

成果指標の進捗状況 整理票

第1節 人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり	
<p>第2項 豊かな緑の自然とのふれあい</p> <p>基本的方向：人々にうるおいと憩いや、多様なレクリエーション活動の場を提供するため、都市に残る良好な樹林地・農地を保全するとともに、多様な都市公園の整備、河川・ため池その他の公共空間や公共施設緑化とそれらの適切な維持管理、また民有地の緑化を進め、市街地における緑の量と質を向上させ、緑あふれるまちづくりを推進する。</p>	
成果指標	(5)森林面積
成果指標の目標達成度からの評価	
<p>・2015年度に森林面積が「現状維持」となることを目標とする。</p> <p>・目標が「現状維持」であること、また実測値が基準値を下回っているものごとくわずかであることから、順調に進捗していると評価する。ただし、実績値が一時点しか存在しないため、補完する調査が必要。</p>	
<b>実績評価：A</b>	
事業実績の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林が有する多面的機能を図るため、市営林造林保育事業、荒廃森林再生事業等を行った。</li> <li>・市営林造林保育事業として、平成24年度までに1,069haの造林・間伐・下刈等を実施した。</li> <li>・荒廃森林再生事業として、長期間手入れがなされず荒廃したスギやヒノキの森林について、平成24年度までに797haの間伐・下刈等を実施した。</li> <li>・平成23年度より、森林整備による二酸化炭素吸収量をカーボン・オフセット事業に活用している。</li> <li>・平成24年度までの売却量は231t-CO2で、販売額は森林整備に充てている。</li> </ul>	
外部要因	・林地開発などにより、森林面積が減少している。
総合評価	<p>成果指標(森林面積)の実績値からの進捗は概ね順調(評価A)であり、市営林の造林保育、荒廃森林の再生事業等も着実に実施されている。また、森林によるカーボンオフセット推進事業という新たな取り組みも行っている。これらにより、当該目標は達成していると評価する。</p> <p>なお、成果指標の実績値が一時点しか存在しないことなどから、本指標の設定については検討が必要である。</p>

成果指標の進捗状況 整理票

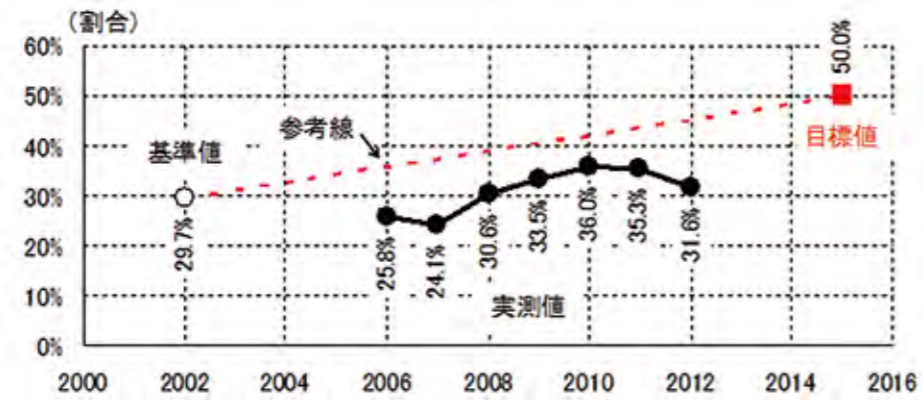
第1節 人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり	
<p>第3項 豊かな水辺の自然とのふれあい</p> <p>基本的方向：福岡市のシンボルである博多湾や市民にうるおいを与える河川などの水質保全を図るとともに、良好な海岸などの保全・創造と緑化を進めて海辺の緑の連続性を高めたり、効果的な鳥類保護方策を講じることにより、様々な生物が見られる自然豊かな博多湾・河川の形成をめざす。</p>	
成果指標	(6)河川支流及び水路などの細流におけるメダカ確認地点数
成果指標の目標達成度からの評価	
<p>・2015年度に「メダカ確認地点数」が286地点中68地点となることを目標とする。</p> <p>・実績値が参考線(基準値と目標値の線分)を上回る場合と下回る場合が混在しており、総じて概ね順調に進捗していると評価する。</p> <p>〔※調査地点：2000年286地点、2005年317地点、2010年313地点 過去の確認地点で未確認の場合の周辺調査、調査地点の消滅等により、調査地点数が変動している〕</p>	
<b>実績評価：B</b>	
事業実績の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性の保全や、その恵みの持続可能な利用のため、「生物多様性ふくおか戦略」を策定し、フォーラムの開催など、生物多様性の社会への浸透に取り組んだ。</li> <li>・博多湾の持つ豊かな自然環境の保全・再生および創造を推進するため、博多湾環境保全計画に基づき、公共下水道等の整備、下水道の高度処理導入など施策を推進した。</li> <li>・今津干潟保全対策のため、今津干潟懇話会での保全対策検討、カプトガニ産卵場整備等を実施した。</li> <li>・エコパークゾーンの環境保全創造のため、海域環境創造事業や「和白干潟保全のつどい」による市民共働事業等を行った。また適切な水域利用に努めるため、「エコパークゾーン水域利用連絡会議」で情報共有・調整を行い、自主ルールの実効性を高めるための活動に取り組んだ。</li> <li>・緑や水辺を生かし、市民が水に親しめる水辺環境をつくるため、河川環境整備を推進した。</li> <li>・農業用ため池(かんがい面積が減少)について、かんがい機能維持と自然環境の保全を図りながら、大雨時の保水機能を併せ持つ水辺空間とするため、市民との共働により整備を実施した。</li> </ul>	
外部要因	・「生物多様性基本法」制定(H20.6)・「生物多様性国家戦略2012-2020」閣議決定(H24.9) ・「福岡県生物多様性戦略」策定(H25.3)
総合評価	<p>成果指標(メダカ確認地点数)の実績値からの進捗は概ね順調(評価B)であり、自然豊かな博多湾・河川の形成をめざして、博多湾環境保全計画に基づき公共下水道等の整備や今津干潟保全対策事業等の各施策を実施している。これらにより、当該目標は概ね達成していると評価する。なお、本指標については、調査地点の消滅など課題があるため、水辺環境の新たな指標を検討する必要がある。</p>

第1節 人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり

第4項 人・地域がつくる自然とのふれあいの場と機会の創出  
 基本的方向: うるおいのある自然環境をより豊かにそして身近なものとしていくため市民参画による緑化事業や公園づくりなど自然への愛着を育む事業を展開する。また、市民主体による自然環境保全や自然とふれあう活動への支援を強化し、市民と共働して自然とふれあい、自然を学び、守り、創造する取り組みを進めながら、水と緑のまちづくりを推進する。

成果指標 (7) 身近な緑への満足度

成果指標の目標達成度からの評価



- ・2015年度に「身近な地域において緑が豊かになっていると感じる市民の割合」が50%となることを目標とする。
- ・実績値が参考線(基準値と目標値の線分)を下回っており、進捗が芳しくないと評価する。

実績評価: C

事業実績の状況

・フラワーハートシティ事業として、市が管理する道路上の植栽帯もしくは道路上に設置したフラワーポット(以下FP)において、市民団体・企業等による花壇づくり活動を促進した。平成17年度末から24年度末までの実績の推移は、団体数30→90団体、花壇面積628㎡→3,573㎡、FP基数160→382基と、着実に実績を伸ばしている。

・福博花しるべ事業として、平成22年度から天神～博多駅間の回遊性の向上を目的として、約2.0kmのルート間を10万本のチューリップで修景し、都心部における緑の満足度の向上に寄与している。球根の植え付け等に当たっては市民ボランティアや企業、エリアマネジメント団体等との共働により実施している。平成24年春から実行委員会を設立し、経費の一部は沿道の企業等からの協賛金により実施している。

外部要因 ・特に想定されない

総合評価 フラワーハートシティ事業、福博花しるべ事業等の多様な事業を実施しているが、成果指標(身近な緑への満足度)の実績値からの進捗は芳しくない(評価C)。これらにより、当該目標は達成に至っていないと評価する。また、これらの事業の成果を身近な緑への満足度として数値化するのには限界があり、今後の指標設定の際には検討が必要である。

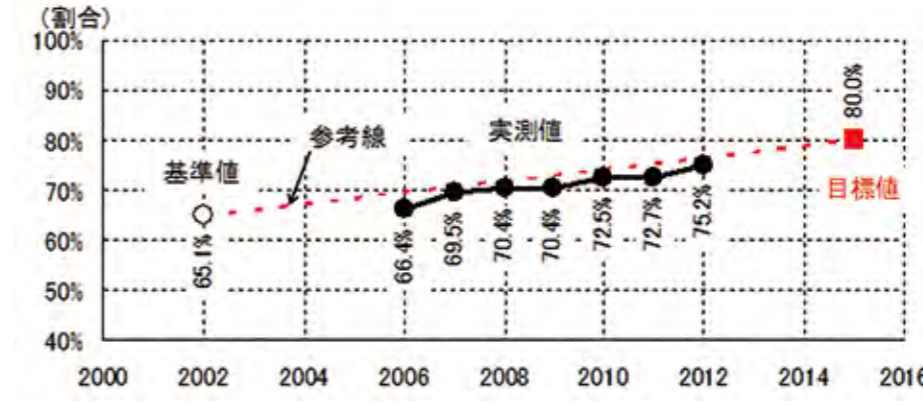


第1節 人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり

第4項 人・地域がつくる自然とのふれあいの場と機会の創出  
 基本的方向: うるおいのある自然環境をより豊かにそして身近なものとしていくため市民参画による緑化事業や公園づくりなど自然への愛着を育む事業を展開する。また、市民主体による自然環境保全や自然とふれあう活動への支援を強化し、市民と共働して自然とふれあい、自然を学び、守り、創造する取り組みを進めながら、水と緑のまちづくりを推進する。

成果指標 (8) 福岡市の農林水産業を守り育てていくべきだと思ふ市民の割合

成果指標の目標達成度からの評価



出典: 福岡市新・基本計画の成果指標に関する意識調査

- ・2015年度に「福岡市の農林水産業を守り育てていくべきだと思ふ市民の割合」が80%となることを目標とする。
- ・実績値が参考線(基準値と目標値の線分)とほぼ一致しており、概ね順調に進捗していると評価する。

実績評価: B

事業実績の状況

- ・今津リフレッシュ農園において、体験農園、じゃがいも・玉ねぎ掘り、栽培講習会・相談会、秋の収穫祭等を実施し、87千人が入場した(平成23年度)。〈再掲〉
- ・立花寺緑地リフレッシュ農園において、体験農園、栽培講習会・相談会、料理教室、年末感謝祭等を実施し、108千人が入場した(平成23年度)。〈再掲〉
- ・「立花山・三日月山ふれあいの森づくり事業」として、市民参加による登山ルートの維持管理や森林保全などを行うとともに、ガイドブック・ホームページ等による広報活動などを行った。
- ・「油山の魅力発信・ハチクマウォッチング」として、油山の魅力を広く市民に対して発信するなどした。

外部要因 ・特に想定されない。

総合評価 成果指標(福岡市の農林水産業を守り育てていくべきだと思ふ市民の割合)の実績値からの進捗は概ね順調(評価B)であり、各区においても「立花山・三日月山ふれあいの森づくり事業」等、市民と共働して自然とふれあい、自然を学び、守り、創造する取り組みを進めている。これらにより、当該目標は概ね達成していると評価する。また、当該成果指標は、福岡市第9次基本計画(平成24年12月策定)の分野別目標において、農林水産局の施策全般に関わる指標項目として設定されている。よって、今後も農林水産振興のための各種施策に取り組んでいく必要がある。



成果指標の進捗状況 整理票

<p><b>第2節 歴史やすぐれた景観を活かした快適なまちづくり</b></p> <p><b>第1項 歴史やすぐれた景観を活かした美しく個性あるまちづくり</b>                  基本的方向:海と縁に抱かれた美しい景観を将来に引き継ぐとともに、水辺の親水化や自然散策路など自然とふれあう場づくりを進める。鴻臚館や元寇防塁などの史跡や御供所周辺の歴史ある街並みなどの保存、整備、活用を図り、歴史的資源を活かしたまちづくりを進める。花や縁に彩られた街並み、界隈性のあるたたずまい、魅力的な夜間照明、電線類の地中化された道路空間や質の高い広告デザインなど、美しく楽しい都市空間の形成を市民や事業者との共働により取り組んでいく。</p>	
<p>成果指標 (9)都市の美しさ評価</p>	<p>成果指標の目標達成度からの評価</p> <p>出典:福岡市新・基本計画の成果指標に関する意識調査</p>
<p>・2015年度に「福岡が美しい都市景観を持っていると感じる市民の割合」が70%となることを目標とする。                  ・実績値が参考線(基準値と目標値の線分)を上回っており、順調に進捗していると評価する。</p>	<p><b>実績評価:A</b></p>
<p>事業実績の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・景観法に基づき、香椎照葉七丁目戸建住宅第1地区景観協定を認可した(平成24年度)</li> <li>・御供所地区の歴史的な環境を生かしたまちづくりの推進として、都市景観形成事業(住宅等修景助成事業)を実施した(修景助成2件)。</li> <li>・福岡市屋外広告物条例に違反したはり紙・立て看板などの広告物を委託業務及び路上違反広告物追放登録員等により除却を行った。路上違反広告物除却枚数175,884枚(平成24年度)。</li> <li>・無電柱化計画に基づき、のべ136.5km(平成24年度末累計)の無電柱化を実施した。</li> </ul>	
<p>外部要因</p>	<p>・特に想定されない</p>
<p>総合評価</p>	<p>成果指標(福岡が美しい都市景観を持っていると感じる市民の割合)の実績値からの進捗は概ね順調(評価A)であり、条例に基づく路上違反広告物の除却、無電柱化計画等の事業が着実に進められている。これらにより、当該目標は概ね達成していると評価する。                  また、成果指標の実績値は着実に増加しているが、増加率は減少しており、この割合を維持・向上させていくため、地域や事業者との共働による景観づくりに一層取り組んでいく。</p> <p>★★★</p>

成果指標の進捗状況 整理票

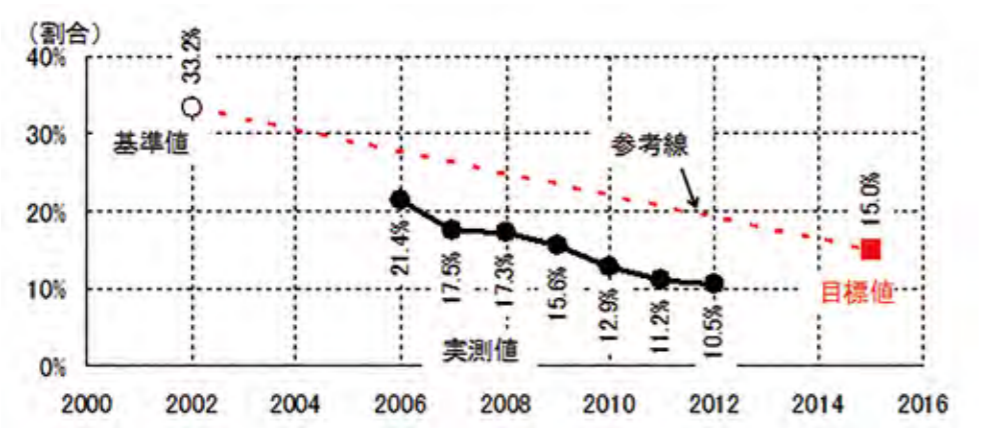
<p><b>第2節 歴史やすぐれた景観を活かした快適なまちづくり</b></p> <p><b>第2項 良好な生活環境の形成</b>                  基本的方向:モラル・マナーの向上、法や規則などルール遵守の市民啓発、取り締まりの強化など、市民と警察、行政が一体となって都市生活者のルールを守る市民のまちづくりをめざす。</p>	
<p>成果指標 (10)市民のマナー評価</p>	<p>成果指標の目標達成度からの評価</p> <p>出典:福岡市新・基本計画の成果指標に関する意識調査</p>
<p>・2015年度に「市民のマナーやルールが守られていると感じる人の割合」が60%となることを目標とする。                  ・実績値が参考線(基準値と目標値の線分)を下回っており、進捗が芳しくないとは評価する。</p>	<p><b>実績評価:C</b></p>
<p>事業実績の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モラル・マナー向上市民啓発事業として、「ふくおか安全安心よかまち運動」を実施するほか、ポスター・チラシ、市政だより、広報テレビ番組等による広報啓発、モラル・マナー推進指導員等による迷惑駐車防止、歩行喫煙防止、自転車安全利用の指導・啓発を実施した。</li> </ul>	
<p>外部要因</p>	<p>・特に想定されない。</p>
<p>総合評価</p>	<p>成果指標(市民のマナーやルールが守られていると感じる人の割合)の実績値は、2006年の34.4%から2012年の47.2%へと上昇しているが、参考線を下回っている状況である(評価C)。一方で、様々な市民への啓発等の事業を実施しており、近年は指標も特に改善が見られることから、当該目標は概ね達成していると評価する。                  引き続き、広報啓発やモラル・マナー推進指導員による巡回指導を実施し、実績値を向上させる取組みを行っていくとともに、「人に優しく安全で快適なまち福岡をつくる条例」(通称:モラル・マナー条例)を、市民だけでなく、観光客等に対しても広く周知するよう努めていく。</p> <p>★★</p>

第2節 歴史やすぐれた景観を活かした快適なまちづくり

第2項 良好な生活環境の形成  
 基本的方向: モラル・マナーの向上、法や規則などルール遵守の市民啓発、取り締まりの強化など、市民と警察、行政が一体となって都市生活者のルールを守る市民のまちづくりをめざす。

成果指標 (11) 自転車放置率

成果指標の目標達成度からの評価



・2015年度に「自転車放置率」が15%となることを目標とする。  
 ・実績値が参考線(基準値と目標値の線分)を下回っており、(注: 本成果指標は、数値が小さいほど達成度が高い)順調に進捗していると評価する。

実績評価: A

事業実績の状況

- ・放置自転車対策の強化等として、街頭指導員による駐輪指導、放置自転車ZEROキャンペーン等の市民啓発を継続して実施した。
- ・総合的な自転車対策の推進(自転車駐車場の整備)として、鉄道駅における市営駐輪場の整備、附置義務条例に基づく民間駐輪場の整備誘導を行った。
- ・平成24年度駐輪場整備台数 239台 平成24年度末時点の収容台数 51,618台
- ・総合的な自転車対策の推進(自転車通行空間の整備)として、道路の拡幅及び既設道路の再整備を行った。  
 平成24年度自転車通行空間整備延長 6.5km(累計約 53.8km)

外部要因 ・特に想定されない。

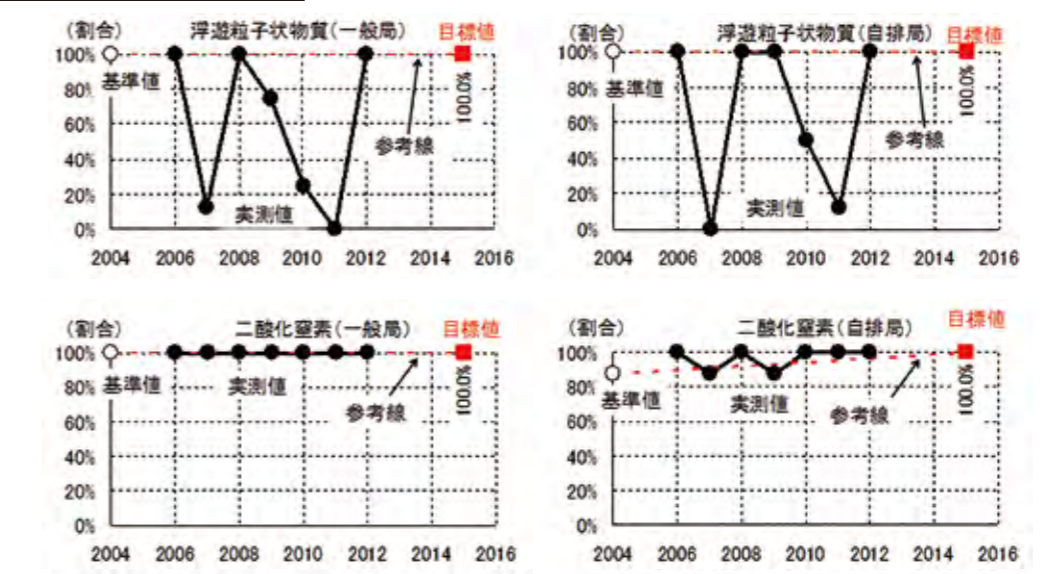
総合評価 成果指標(自転車放置率)の実績値からの進捗は順調(評価A)であり、これは駐輪指導、駐輪場や自転車通行空間の整備等の事業が着実に進められた結果と考えられる。これらにより、当該目標は達成していると評価する。 ★★★★★

第3節 健康で安全・安心な環境の確保

第1項 大気・音環境の保全  
 基本的方向: 市民、事業者、行政などが、それぞれ主体的に、また、共働して、自動車交通の集中による二酸化窒素などの大気汚染や騒音問題など、都市生活に伴う環境問題の改善・解消に向けて取り組む。

成果指標 (12) 環境基準(大気質)の達成率

成果指標の目標達成度からの評価



・2015年度に「環境基準(大気質)の達成・維持に努める」ことを目標とする。  
 ・浮遊粒子状物質については、実績値が参考線(基準値と目標値の線分)を下回っており、進捗が芳しくないとして評価する。また、環境基準を達成できなかった年については、黄砂や越境大気汚染による影響がその主要因である。  
 ・二酸化窒素については、実績値が参考線(基準値と目標値の線分)を上回っており、順調に進捗していると評価する。

実績評価: C

事業実績の状況

- ・上記以外に環境基準値が設定されている項目で、黄砂や越境大気汚染の影響を受けやすい光化学オキシダント、微小粒子状物質については全ての測定局で基準値を達成していない。なお、二酸化硫黄、一酸化炭素については達成している。
- ・大気汚染防止法、ダイオキシン類対策特別措置法や福岡県生活環境保全条例に基づき、新規施設の届出時の審査・指導や既存施設に対する監視・指導及び調査を行った。大気汚染防止法: 届出件数14件、立入件数32件、有害汚染物質調査2件、ダイオキシン類対策特別措置法: 立入件数5件、福岡県生活環境保全条例: 届出件数2件、立入件数2件。(平成24年度実績)
- ・自動車排出ガスの負荷の低減については、第3次福岡市自動車交通公害防止計画に基づき、低公害車の普及促進などの施策に取り組んでいる。

外部要因 ・浮遊粒子状物質については、黄砂や越境大気汚染の影響を受ける。

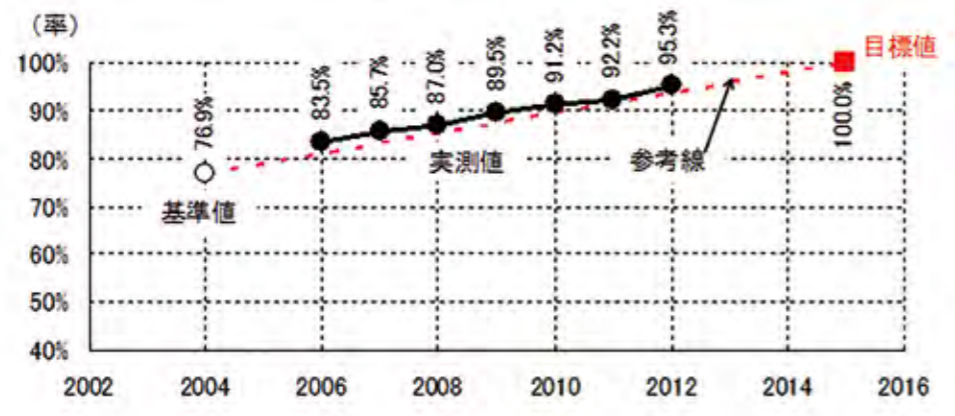
総合評価 法令に基づく監視・指導・調査を着実に実施しており、浮遊粒子状物質の進捗は芳しくない(評価C)が、黄砂や越境大気汚染の影響を考慮すると、当該目標は概ね達成していると評価する。なお、二酸化窒素については、目標値を上回り、今後も順調に進捗するものと予想される。 ★★

第3節 健康で安全・安心な環境の確保

第1項 大気・音環境の保全  
 基本的方向：市民、事業者、行政などが、それぞれ主体的に、また、共働して、自動車交通の集中による二酸化窒素などの大気汚染や騒音問題など、都市生活に伴う環境問題の改善・解消に向けて取り組む。

成果指標 (13)環境基準(騒音)の達成率

成果指標の目標達成度からの評価



- ・2015年度に「環境基準(騒音)の達成・維持に努める」ことを目標とする。
- ・実績値が参考線(基準値と目標値の線分)を上回っており、順調に進捗していると評価する。

実績評価:A

事業実績の状況

・騒音規制法、振動規制法及び福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例に基づき、各種届出の受理審査、監視・指導を実施した。

	特定工場等		特定建設作業	
	立入件数	改善指導件数	立入件数	改善指導件数
騒音規制法	14件	2件	25件	20件
振動規制法	8件	1件	11件	8件
県 条 例	0件	0件		

・自動車交通騒音の低減については、第3次福岡市自動車交通公害防止計画に基づき、道路構造の改善などの施策に取り組んでいる。

外部要因 ・特に想定されない

総合評価 成果指標(環境基準(騒音)の達成率)の実績値からの進捗は順調(評価A)であり、法令に基づく監視・指導等の事業も着実に進められている。これらにより、当該目標は概ね達成していると評価する。  
 また、環境基準の達成率は徐々に向上しており、目標値達成に向けて順調に進捗しているが、今後は達成率の鈍化が予想される。

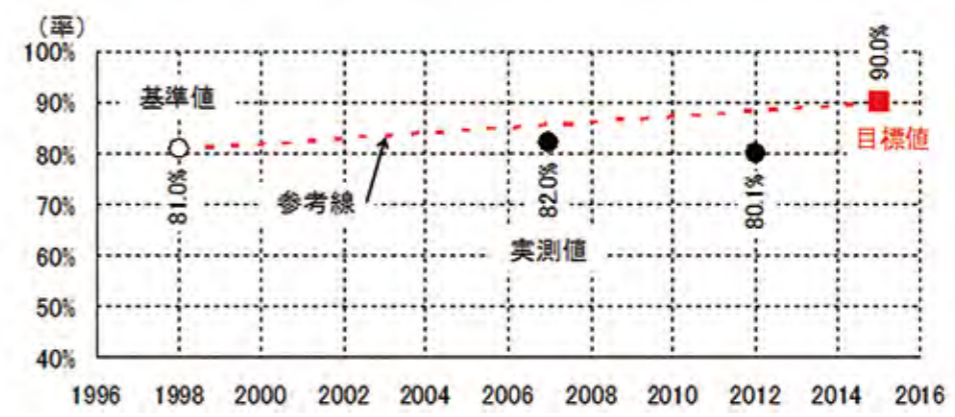


第3節 健康で安全・安心な環境の確保

第1項 大気・音環境の保全  
 基本的方向：市民、事業者、行政などが、それぞれ主体的に、また、共働して、自動車交通の集中による二酸化窒素などの大気汚染や騒音問題など、都市生活に伴う環境問題の改善・解消に向けて取り組む。

成果指標 (14)公共交通機関利用による30分圏域率

成果指標の目標達成度からの評価



- ・2015年度に「市街化区域のうち、都心部へ公共交通機関を利用して30分で行ける地域の割合」が90%となることを目標とする。
- ・実績値が参考線(基準値と目標値の線分)を下回っており、進捗が芳しくない」と評価する。

実績評価:C

事業実績の状況

- ・地下鉄七隈線の開業(平成17年2月)
- ・都市高速道路をはじめとする放射環状型道路網の整備  
 都市高速道路整備延長 平成10年:31.0km → 平成24年:56.8km  
 都市計画道路整備率 平成10年:54.9% → 平成23年:79.3%
- ・バス専用レーンおよびPTPSの整備による、バス走行環境の向上

外部要因 ・幹線道路の整備に伴うバス路線網の充実により、30分圏域が拡大  
 ・市街化区域の拡大により、30分圏域率の低下  
 ※1998年度の市街化区域をベースとした場合の30分圏域率は92.3%(2012年度)

総合評価 地下鉄七隈線の整備や幹線道路の整備等の事業を実施しているが、成果指標(公共交通機関利用による30分圏域率)の実績値からの進捗は芳しくない(評価C)。これは、市街化区域の拡大により、30分圏域率が目標の参考線を下回る結果となったものである。しかし、地下鉄七隈線の整備および幹線道路の整備に伴うバス路線の充実により、30分圏域は拡大しているため、当該目標は概ね達成していると評価する。

